

## 新年あけましておめでとうございます。

2019(平成31)年の年頭にあたり、産総研地質調査総合センター(GSJ)を代表して謹んでご挨拶申し上げます。

本年は天皇陛下のご退位に伴い元号が改められる年にあたります。地質調査総合センターは明治15年に地質調査所として創立されましたので、明治、大正、昭和、平成の歴史を経て、また新しい時代に向かうこととなります。天皇陛下が皇太子殿下であられた昭和58年6月に、当時の皇太子殿下、同妃殿下、浩宮殿下はつくば地質調査所の地質標本館をご視察されました。これは現在のGSJのウェブサイトでGSJ地質ニュースの前身の地質ニュースのバックナンバーを見ていた時、1983(昭和58)年7月号に掲載されていた記事で見つけました。このバックナンバーのページには1953(昭和28)年の地質ニュースNo.1から現在のGSJ地質ニュースの最新号に至るまで、各記事をPDFで掲載しております。GSJのウェブサイトは過去から現在に至る貴重な情報や地質の新情報が満載ですので、皆様もぜひお立ち寄りください。

### 地質ニュースで辿るGSJ：メタセコイア

地質ニュースのバックナンバーの中に「メタセコイアの由来と地質標本館」(1992(平成4)年3月号、尾上亨)という記事を見つけました。地質標本館は産総研つくば中央地区の第七事業所にあります。第七事業所の本館や別棟にはGSJの各研究部門が配置されており、本館の隣に建てられている地質標本館は、GSJの成果普及、広報に大きな役割を果たしています。地質標本館の建物は1980(昭和55)年3月に完成したもので、第七事業所の本館はその前年の1979(昭和54)年3月には完成していました。私は昭和54年4月に、当時川崎市の溝の口にあった地質調査所に入所し、同年の秋に地質調査所の移転とともにつくばに来ましたので、私の地質調査所、地質調査総合センターでの勤務は地質標本館も含めたつくばの建物とほぼ同じ年月になります。

さて、地質標本館の前庭には大きなメタセコイアが6本あります。地質標本館にお客様をご案内するときには前庭を通りますが、岩石・鉱物数十万点を擁し最新の

地質情報を展示しているGSJの誇る地質標本館へご案内するアプローチにこのメタセコイアは大きな彩を添えてくれます。その高さは8階建ての本館に匹敵する30m程度もあり、見上げる大きさです。上記の記事にはこのメタセコイアについての興味深い事実が種々書かれています。

「地質標本館の建設の話が具体的になってから、館内には“生きている化石”の展示を設置することとなったので、それと関連する樹木を筆者(尾上)が提案した。当時、地質調査所溝の口本所玄関脇にメタセコイアが植えてあったのでその木の枝を切ってさし木をし、20本ほど根付いたのでそれを移転と同時につくばの敷地内に移植した。しかし、それは引っ越しで忙しくしている間に芝と一緒に刈られてしまった。現在の地質標本館前に植えられているメタセコイアは植木職人の手で植えられたものとなった。」「当初は丈が5mほどであった。現在(平成4年)では高さ13mの地質標本館を超えて15m

はあろうかという大木となっている。」現在の 30 m の高さを思うと、つくばでの時間の経過と木々の成長を感じる記事です。

また、以下の記述もあります。「メタセコイアは針葉樹としては珍しい落葉樹で、4 月には淡い緑の芽を吹き、夏には濃い緑をたたえ、秋になると橙褐色に紅葉し、すっ

かり葉を落とすその冬の樹形もまた美しい。」まさにその通りで、私は木々で美しいつくばセンター内においても、メタセコイアの立つ地質標本館前は格別の美しさであると思います。この記事には、「生きている化石植物発見のエピソード、メタセコイアとセコイアの相違、化石メタセコイアについて」という興味深い内容も含まれています。



メタセコイアと地質標本館。(左) 2015 年 5 月撮影, (右) 2018 年 12 月撮影。

## 地質ニュースで辿る GSJ：地質標本館の建物

地質標本館の建物の建築石材については地質ニュース 1981 (昭和 56) 年 8 月号の地質標本館だよりに記載されています。「研究本館ゾーンはレンガタイル貼りの大きな建物が並んでおり、これらに囲まれた環境の中で標本館が一般見学者に分かりやすいよう、また建物全体の外装が本館ゾーンの色のバランスを壊さない条件で淡紅色を呈するカリ長石を多量に含有している黒雲母花崗岩の石貼りとした。建物の色は常に退紅に見えるが雨に濡れると本館の色に近い淡いレンガタイル色となる。」確かに、地質標本館は雨が降ると普段の色よりも紅色が強くなり石の深みを感じさせてくれる建物となっています。同記事によれば、この花崗岩は韓国産のジュラ紀のものようです。メタセコイアや様々な木々の間に美しい姿で佇む地質標本館ですが、近年は年間 4 万人を超える来場者を迎え、昨年 5 月には 1980 年の開館以来の累計来館者数が 120 万人を超えました。また標本以外の様々な展示物も充実、更新に努めており、昨年 3 月には日本



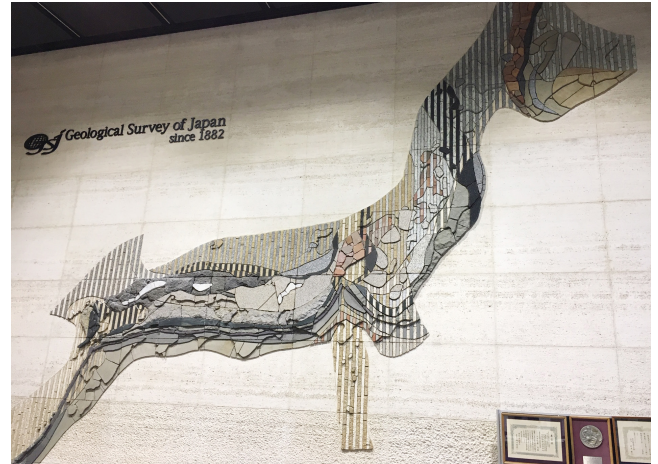
列島の立体地質図を地質情報プロジェクションマッピング技術による新しいものに更新しました。GSJ 地質ニュース 2018 年 7 月号に藤原 治・芝原暁彦による紹介記事があります。皆様も地質標本館にぜひお立ち寄りください。



## 地質ニュースで迎える GSJ : GSJ 研究本館正面玄関ホール

地質標本館の隣に研究本館がありますが、この研究本館の正面玄関ホールも地質の総合センターに相応しい造りとなっています。地質ニュース 1979(昭和 54)年 1 月号の記事「研究本館の建設状況」から見ていきましょう。「正面玄関ホールは間口 12.8 m 奥行 14.4 m で 2 階までの吹抜けである。床面は黒色花崗岩、壁面は淡黄橙色のトラバーチン仕上げの予定である。」トラバーチンとは緻密な石灰質沈殿岩であり、玄関ホールの壁面に使用されている素材は多孔質や縞状の模様で地質への思いを魅了するものとなっています。

正面玄関から入って右手をご覧くださいと、高さ 7.2 m、長さ 14.4 m の壁面に、日本列島の地質を象徴的に表現している岩石モザイク張りがあります。これについては上記の地質ニュース記事と、最近の GSJ 地質ニュース 2018 年 4 月号のシリーズ「GSJ 筑波移転」についての第 1 回で松井和典先輩のインタビュー記事の中にも記述があります。日本列島を 14 帯の構造区分に分けた 200 万分の 1 地質構造図(1965 年編集, 1968 年出版,



地質調査所)をベースとして、壁面装飾としてのアレンジを加えたもので、各構造帯別の岩石は可能な限り国産の岩石が利用されています。この同じ壁面の左上には GSJ のロゴと Geological Survey of Japan since 1882 の文字が掲げてあり、GSJ を象徴する場所となっています。

新しい年を迎え、GSJ もまたひとつ歳を重ねます。本年も、私たちの研究成果を多くの皆様にお伝えするために GSJ のウェブサイト、GSJ 地質ニュース、地質標本館は情報満載で皆様のお越しをお待ちしております。

### 参考文献

- 地質調査所 企画室 (1983) 皇太子殿下・同妃殿下・浩宮殿下地質標本館ご視察. 地質ニュース, no. 347, 6.  
地質調査所 筑波計画室 (1979) 研究本館の建設状況. 地質ニュース, no. 293, 1-10.  
藤原 治・芝原暁彦 (2018) プロジェクションマッピングでリニューアルされた「日本列島立体地質図」.  
GSJ 地質ニュース, 7, 178-181.  
小松原純子・岡井貴司 (2018) 「GSJ 筑波移転」第 1 回松井和典さんインタビュー「地質調査所の施設設計」.  
GSJ 地質ニュース, 7, 115-117.  
尾上 亨 (1992) メタセコイアの由来と地質標本館. 地質ニュース, no. 451, 61-67.  
陶山淳治・神戸信和・松井和典 (1981) 地質標本館だより このシリーズをはじめるとにあたり、地質標本館の建築石材について. 地質ニュース, no. 324, 62-63.

GSJ 地質ニュースバックナンバーは <https://www.gsj.jp/publications/gcn/gcn.html>

地質ニュースバックナンバーは <https://www.gsj.jp/publications/pub/chishitsunews/news-contents.html>

にて PDF ファイルで閲覧できます。

(いずれの URL も 2018 年 12 月 12 日確認)